

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 2月 3日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201339		
法人名	社会福祉法人 伏古福祉会		
事業所名	グループホーム藤苑		
所在地	札幌市東区伏古7条3丁目2-34 (電 話) 011-784-2900		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年1月30日	評価確定日	平成21年3月24日

【情報提供票より】 (21年 1月 5日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 14人, 非常勤 4人, 常勤換算	16.6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000/35,000円	その他の経費(月額)	光熱水費 22,000 円 暖房費(期間限定) 5,000円
敷 金	有 (円) ・ (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,250 円		

(4) 利用者の概要 (1 月 5 日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	1 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	4 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低 78 歳	最高 93 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	勤医協中央病院、八田内科、三浦精神科、伏古歯科、小林皮膚科
---------	-------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム藤苑は、「和顔愛語」の基本理念を念頭に置き、管理者と職員は良好な信頼関係の下、同じ方向性でのケアサービスの提供に高い意識を持って取り組んでいる。一人ひとりのその人らしい暮らしが出来るようきめ細かな個別ケアを実施し、笑顔のあるゆったりと穏やかな利用者の暮らしに繋がっている。ターミナルケアでは、利用者・家族が望む終末の日々を丁寧に支援している。ホームは開放的であり、特にボランティアの協力は多彩な催し会のほか、一緒に楽しみ食を共にし、日常的にふれあう機会が多く支援されている。地域の認知症高齢者の相談拠点として、今後の活動の充実が期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の課題である地域密着型サービスとしての理念への取り組みは、職員全員で話し合い、内容の文書化、パンフレットへの明示など速やかな改善が実施され、災害時対策についても検討し、継続的に取り組んでいる。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価については、項目ごとに協議し、現状の確認と課題の明確化に繋げている。運営者、管理者及び職員は評価の意義を理解し、サービスの質向上に積極的な姿勢が窺える。
	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 18年10月より定期的な開催を実施している。メンバーの増員を図り、さらに多様な意見をいただき、具体的なホーム運営に反映している。ホームの実情や地域連携、社会情勢に至る活発な意見交換の中から、行政、地域との連携を深め、ホームの専門性を活かした地域貢献への活動拡大に繋がってきている。
重点項目②	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族会が設置され、総会や行事出席など活発な活動が実施されている。ホームとして、総会前には無記名アンケートにより家族の率直な意見聴取を行なっている。管理者、職員が、家族から日常的に意見や要望を伺う機会が多くあり、運営への反映にも速やかな対応が図られている。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 開設時より、地域に根差したホーム運営が確立しており、利用者の地域生活を継続的に支援している。町内会行事に参加し、昨年初のホーム主催の「夏祭り」は、地元住民、家族など大勢の参加をいただき成果を挙げている。ボランティアや子供達との楽しみ事、実習生の導入など双方向の交流が定着している。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営法人理念を念頭に置き、独自の理念を策定している。地域密着型サービスの意義を職員全員で確認し、地域の中で尊厳ある生活の堅持を盛り込み、質の向上に努めている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は理念の共有及び実践を重視し、新人職員研修、職員会議などで常に理念に結びつく伝達を行なっている。ユニット毎に一年を振り返り、次年度の目標を掲げ、職員間で統一した認識の下、理念に根ざした具体的ケアの実践に取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者の地域生活の継続や交流が当然の事としてホーム運営がされている。町内会行事はもとより、ホーム主催の夏祭りでは地元住民、家族などの参加をいただき大イベントになっている。日常的なボランティアの来訪、幼稚園児、小学生など子供達との交流、学生実習生の導入など、双方向の交流、地域活動の拡大に取り組んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者及び職員は評価目的の理解を深め、職員会議で、一項目毎検討・協議し、現状の確認と課題抽出に繋げている。改善課題に対しては速やかな対応が図られており、サービスの質向上に積極的な姿勢が窺える。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	18年10月から定期的開催している。ホームの実情や地域連携、さらには社会情勢など多岐に亘る活発な意見交換が実施され、具体的なホーム運営に反映されている。参加メンバーとの協働で地域認知症相談窓口開設や利用者を支える家族の茶話会の開催など、ホームの専門性を活かし、地域還元としての活動拡大に繋がってきている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市や区の介護保険課や保護課の担当者とは、その業務を通して適時連絡を取り、相談しやすい協力関係が築かれている。包括支援センターとは地域高齢者に対する支援活動で連携を図り、より質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームや利用者の様子を記載した便りを毎月発行し、個人別の情報伝達を行なっている。行事や新人職員の写真も送付し、家族の安心に配慮している。状態変化時の速やかな報告のほか、家族の来訪時には職員全員が対応し、利用者の日常生活の報告がされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が設置され、総会や行事など活動が活発であり、総会前の無記名アンケートで、家族の意見聴取に取り組んでいる。日常的にも率直な家族の意見や要望を伺う機会が多く、運営に反映させている。また苦情対応に関する明解な仕組みが構築されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	組織内異動の場合は、馴染みの関係性を重視した配慮がされている。離職に関しては事態を分析・対応策を実施し、現在は安定した支援体制でのサービス提供に至っている。職員交代の際には、利用者一人ひとりに対しての対応を考慮し、影響を最小限に抑える支援が行なわれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者及び管理者は職員育成に熱心であり、新人職員のスタッフ研修、懸案事項についての法人内研修、段階に応じた外部研修などを必修、または参加を積極的に促し、質の向上に取り組んでいる。ホーム内での適切な指導や先輩職員の経験が上手に伝わるなど、日常業務でのスキルアップが良好に図られている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ほかのホームとは、職員同士の相互訪問や学習の機会が設けられ、現状の課題などの話し合いが実施されている。小規模多機能事業所や遠方のホームとの交流もあり、サービスの質向上に向けた連携に努力している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談から利用開始に至るまで利用者、家族の不安や心配事に十分配慮し、自宅訪問やホーム見学で顔馴染みの関係を徐々に作りながら、利用開始に努めている。家族などからの情報を考慮しつつ、実際の状態把握や見極めを重ね、早期にその人らしい暮らしが出来るよう支援に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者一人ひとりの居心地良い暮らしは何かと考えた支援を行っており、共に過ごす者として、常に利用者心に心を寄せているのが窺える。日常の係わりの中で、職員と利用者の会話が長く、一緒に家事をしたり、語り、楽しみごとを分かち合い、共感し合う関係性が築かれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者の思いや希望を第一義的に捉え、会議やミーティングなどで検討・共有し、確認しながら意向把握を進めている。把握の困難な人は、その時々の方々の非言語コミュニケーションなどを詳細に観察し、利用者本位の検討を実施している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	アセスメントはセンター方式を取り入れ、定期的に内容を見直して情報を蓄積し、職員間での共有化が図られている。日常ケア場面での職員の気づきや医療関係者の意見などを盛り込み、また家族を交えたケアカンファレンスを設定し、利用者が主体となる介護計画作成にチームで取り組んでいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居時は1ヵ月の期間計画を立てて、その後は毎月会議の中で、利用者一人ひとりの状態や支援状況などのモニタリングを重ね、6ヵ月の定期見直しを実施している。状態変化の際には月に2度3度の見直し・変更を行ない、家族や関係者と協議しながら、利用者の現状に合った計画を見直しし、新プラン作成に取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の方々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者・家族の要望や状況により通院や自宅への送迎、買物や故郷訪問など、ホームの有する多機能性を柔軟に提供している。また地域相談窓口として専門性の活用も行なっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の状況により、訪問診療が実施されている。また通院受診の際には、家族と状況の共有、報告が随時なされている。協力医療機関とは、入院の際や日常的にも相談できる関係にあり、密接な関係が構築されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方に関する指針を策定し、家族の同意をいただいている。現時点での看取りケアについて家族の意向を確認している。医療機関の協力で、ホームとして看取りケアの実践があり、終末期における介護計画を策定し、関係者間で繰り返し話し合いを重ね、その都度合意形成を図りながら、利用者の終末の日々を丹念に支援してきている。		
IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の誇りやプライバシー尊重を根本に置き、その人らしい尊厳が保たれるよう、職員は基本的対応に留意し、互いに注意し合う体制が作られている。個人情報の利用に関する同意を頂いて、記録の管理・保管の徹底に努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者との信頼関係を大切に捉え、1対1の対話を行なっている。一日の生活の流れはあるが、個性や状態を見極め、一人ひとりのペースやリズム、希望などに合わせた支援を実施し、入居間もない利用者も、早期に落ち着いた生活への移行の様子が窺える。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事に関する作業に、利用者の参加をきめ細かく支援している。状態低下が見られる中、出来る限り得意事や力量を活かしたお手伝いを見出し、利用者は職員と一緒に盛付けや配・下膳、茶碗拭きなどを行なっている。誕生会や家族・ボランティアを交えての食事会など、楽しい食事の機会や環境の工夫に取り組んでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者の希望を尊重し、何時でも入浴が可能な体制であり、数名の夜間入浴も対応している。希望表出が難しい人は、最低週に2回を基本に一人ひとりに合わせて、ゆったりとした入浴支援を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員はセンター方式を活用し、利用者の楽しみ事や力量把握、その見極めに取り組んでいる。できる事での自立支援を実施し、家事仕事や花壇の手入れなどの役割、歌唱や習字、写真、カルタやゲームなど、張り合いや楽しみに繋がる支援の工夫を行なっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	公園への散歩や買物など、利用者の希望に添い、職員と数名で、また1対1での外出支援にも取り組んでいる。外食や近郊公園へのドライブ、お花見や初詣など、戸外で楽しむ機会を提供しサポートしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が施錠したケアの弊害を理解し、夜間以外は鍵を掛けないケアの実践を行なっている。外出希望の人やその様子が見られたら、職員も同行し、利用者の意思を受け留めながら、納得や安心感のある見守り支援を行なっている。		

札幌市東区 グループホーム 藤苑

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力で年に2回消火、避難訓練を実施している。昼、夜間想定や消火器の扱い方など、実践的訓練を実施し、隣接している運営法人特養施設との協力を得られる体制が整っており、防災対策に努めている。	○	災害時における地域住民の協力体制の構築や地域住民も加えた連絡網の作成、また防災備蓄品の準備など、さらなる防災対策の強化に取り組む事を期待する。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事や水分の摂取量を把握し、栄養バランスに配慮した献立を作成している。食材や調理法も嗜好や嚥下状態等に応じ工夫している。重度の利用者には栄養補助食品の使用や好みのものを用意し、食欲を促し、食が進むよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、ダイニングは開放的で広いスペースが確保され、食卓やソファ、畳シート、ベンチや椅子など設置し、4～5箇所の寛ぎの場が工夫されている。季節の花々や利用者の作品が飾られており、陽光や匂いなど気になる要素は感じられない。キッチンから調理音や笑い声が聞こえ家庭的な雰囲気が漂い、ゆったりとした心地よい環境である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者と家族により、思い思いのレイアウトや手作り品や写真など装飾が施されている。馴染みの家具や思い出の品、必要な物品など持ち込まれ、利用者一人ひとりの安心感や状態を考慮し、心地よく暮らせる居室の支援を行なっている。		

※ ■ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。